

主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学学習

1 はじめに

今年度の授業研究委員会では、事実に関する認識を獲得する授業と価値に関する認識を形成する授業の方向を見出す上で非常に価値のある提案をしていただいた。事実の定まっている歴史的分野の授業においても、これから未知の状況に対応して社会を構想していく力を身に付けさせることを頭に置き、実践を重ねてきた。2度の提案授業をもとに、歴史的分野の授業研究委員会の先生方と検討してきた内容と方向(案)について、以下にまとめていく。

2 研究内容

- (1) <全体論参照>
 (2) 社会の形成に参画する力を育てるための指導方法の明確化
- ① 事実に関する認識を獲得する授業のモデルの定着・発展
 - ② 価値に関する認識を形成する授業のモデルの構想・提案

3 授業実践

授業実践1 郡上市立八幡西中学校(10/21)

授業者：鈴木 則隆 教諭

単元名：「日清・日露戦争と近代産業(第2学年)」

課題：「産業が発展して、日本の社会はどのように変化したのだろうか」

内容：単元内のイギリスの産業革命の学習で獲得した事実をもとに、日本の産業革命による社会の変化について多様な側面から追究し、時代相をつかむ。

観点：◎生徒の予想の発表を聞きながら、「経済」「環境」の視点をもとに追究視点を明確にした。

◎前段で獲得した概念的知識を元に、イギリスの産業革命と比較し共通点を考えた。

【事実に関する認識を獲得する授業】

【授業実践1について】

研究内容(2)①「事実に関する認識を獲得する授業」

◎追究視pointsの明確化

○「事実に関する認識を獲得する授業」として、丁寧に1単位時間を展開した授業であった。特に、課題化の後、生徒に予想を問い、「経済」「環境」の側面から追究視点を明確にしたことで、追究の際に既習のイギリスと比較しながら考えることができた。

▲「経済」「環境」の視点を持ちながら追究していたものの、視点と根拠とする資料が一致していない生徒が見られた。

→追究に入る前に、「どんなことが分かるとよいか」など生徒に問うことによって、視点と資料を一致させた上で追究に入ることが大切である。

◎概念的知識をもとに、既習との共通点を考える(認識を深める場における手立て)

○深めの発問で日本の産業革命と既習のイギリスの産業革命の共通点を考えさせたことによって、日本における産業革命の光と影を捉えることができた。産業革命というものは、国の近代化に必要なだったことに気付くと共に、急激な変化は公害を引き起こすものであるということにも気付くことができた。

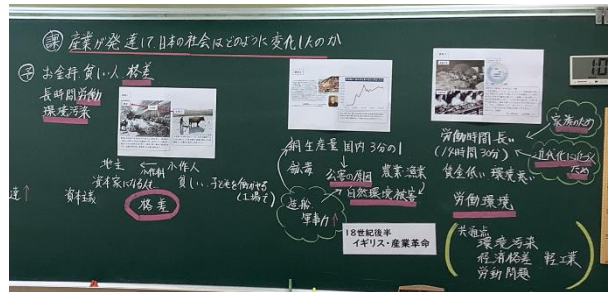
▲深めの発問として、イギリスの産業革命との共通点を考えさせる発問を行った際、生徒が「環境汚染」「経済格差」「軽工業の発展」など、知識(ワード)での発言になってしまい、教師の補助発問が多くなってしまった。(時代相に行き着く前に)

→深めの発問に入る前に、課題解決として前段の学習をまとめ、概念的知識を共通の土台として獲得しておく必要があった。

【授業実践1の考察】

◇後段で「工女の長時間労働は、日本にとって必須だったのだろうか」というような、★時代を象徴するような事象の賛否についての判断を問うような展開を仕組むことで、価値の認識を形成していく考え方を身に付けていくことにつながる。

※★について、次の授業実践である松倉中学校の中本教諭が授業実践の中での主張につなげて下さった。



授業実践2 高山市立松倉中学校(11/22)

授業者：中本 貴広 教諭

単元名：「産業の発達と民衆の成長」(第1学年)

課題：「嘉吉の土一揆で民衆の主張が幕府に認められたのはなぜだろう」

内容：嘉吉の土一揆で民衆の主張が認められ、徳政令を勝ち取ったことを追究することを通して、民衆が成長したことをつかむと共に、幕府が徳政令を認めたことの是非について検討する。

観点：◎全体交流において、概念的知識を獲得した後、「徳政令を認めた幕府の判断をどう思うか」と深めの発問を行い、生徒の価値に関する認識を顕在化させる。

【価値に関する認識を形成する授業】

【授業実践2について】

**研究内容(2)②「価値に関する認識を形成する授業」
◎獲得した概念的知識をもとに、事象の是非を考える**

○前段では、嘉吉の士一揆がもたらした影響について、幕府と民衆の立場からの追究を通して、幕府が民衆を無視できなくなるほど大きく成長した時代であることを捉えた。その上で、幕府が徳政令を出したことの賛否を問うことによって、「政治の安定」「世の中の仕組みの維持」など、生徒の価値に関する認識を顕在化させることができた。

▲今回は賛成、反対の意見の中のどちらにも民衆の動きが重要視されているという共通点から、「民衆の成長」という時代相についてつかませることを狙った。しかし、前段で意見を集約するなど、時代相について捉えることはできる展開であったため、後段の出口と重なってしまっていた。

→後段は個人内の価値についてじっくり表出させ、板書に位置付け、自分は又は仲間がどのような点に重きをもったのかを顕在化させていくことを大切にするとよかった。(価値の認識)

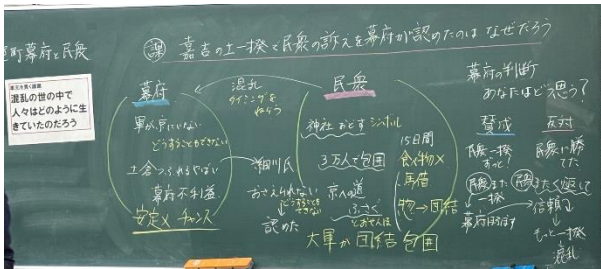
▲前段で概念的知識を獲得した段階であるとはいえ、徳政令という事象について賛成、反対の判断をする足場が不明瞭だったのではないかと。

→現代を生きる生徒としての立場なのか、当時を生きた人(為政者など)の立場なのか、判断の足場をどこに置くのかをはっきりさせていく。

【授業実践2の考察】

◇八幡西中の鈴木教諭の授業研究会での話題のように、本時は二単位時間の二時間目として位置付け、前段は事実認識、後段は価値認識と分けることで、価値認識の場の時間を生むことができた。また、前半で時代相をつかむ象徴的な事象(幕府が民衆の成長を無視できたり、徳政令を出したこと)についての認識を獲得したからこそ、後段でその是非を問うことができる。そして価値の認識につなげていくことができる。

◇一単位時間の中で、こういった判断をする場を作り、経験させていくことは大切。そのため(上述したような)時代相をつかむ象徴的な事象の是非を問う場と共に、その他の事象の是非を問う場などについても単元に意図的に位置付け、判断していく経験をつませていく。(その際、判断の足場として、人物に着目させて「(人物)ならどのように判断すると思うか」と問うなど)ただし、いたずらに授業の後半に乱発するべきでなく、きちんと事実を元に判断させることを大切にす。



4 今後の方向

- 1 「事実に関する認識を獲得する授業」をこれまで同様、大切に積み上げる。その学び方を身に付けさせる。
- 2 時代相(概念的知識)をつかむことを通して事象の是非を判断する場合は、価値に関する認識を形成する場と捉える。そのような判断を問う場を意図的に単元に位置付け、経験させていく。
- 3 時代の転換点でどうすべきだったかを判断する授業(6年度の研究の方向を参照)はこれまで通り、可能な単元に位置付ける。

また、今年度の実践をもとに、どのような授業が事実に関する認識を獲得する授業で、価値に関する認識を形成する授業であるのかを分類すると共に、単元の中のどこに位置付くのかを以下のようにまとめた。

	授業の種類	位置
事実に関する認識を獲得する授業	STEP1 ○学習する時代の国作りの課題や社会の変化から単元の課題を作る授業 ○時代の出来事や社会の仕組みについての知識を獲得する授業	単元導入～中盤
	STEP2 ○人物の国作り等に対する営みの是非について判断する授業 ○時代相をつかみ、時代を象徴する事象の是非について判断する授業	単元中盤
	STEP3 ○時代の転換点はどこか考え、「よりよい国にするために何が最も大切だったのか(事象の優先順位や序列)」を判断する授業	単元中盤～単元終末

STEP2 はイメージとして、昨年度までの「事実に関する認識を獲得する授業と価値に関する認識を形成する接続の授業」である。違いは、STEP2～STEP3にかけての「単元を通して、価値に関する認識を形成していく」という捉えである。(ちょっとした事象についての判断もあれば、時代を象徴する事象に対する是非の判断までである)この繰り返しの営みが、公民での価値に関する認識を形成する授業につながると考えている。

5 終わりに

事実の定まっている学習となる歴史的分野は「事実に関する認識の獲得」が中心となる。その上で、今年度県内の先生方が「もし〇〇ならば…」というような、かつてはタブー視された発問等にも挑戦され、時代の変化に沿った付けたい力を描き、実践して下さった。今年度の私たちの成果として自信をもって7年度へ、そして8年度的美濃大会へつなげていきたい。